

感染症法に基づくメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*: MRSA）感染症の届出状況、2024 年

国立感染症研究所 応用疫学研究センター

感染症サーベイランス研究部

実地疫学専門家養成コース（FETP）

2025 年 11 月 15 日現在

（掲載日：2026 年 5 月 8 日）

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*: MRSA）感染症は、1999 年 4 月に施行された感染症法で四類定点把握対象疾患に、また、2003 年 11 月の感染症法の改正では五類定点把握対象疾患となり、現在、基幹定点医療機関（病床数 300 以上の内科又は外科を標榜する病院で、全国約 500 定点）の医師が MRSA 感染症と診断した場合、月単位に届出ることが義務付けられている。

MRSA 感染症としての届出対象は MRSA 感染により発症した患者であり、保菌しているだけの者は対象外である（届出基準、届出票については

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-41-01.html> 参照）。なお、感染症法に基づく届出の基準として示された MRSA の判定基準値は、医療機関で用いられている判定基準値と異なることがある（文末参考）。

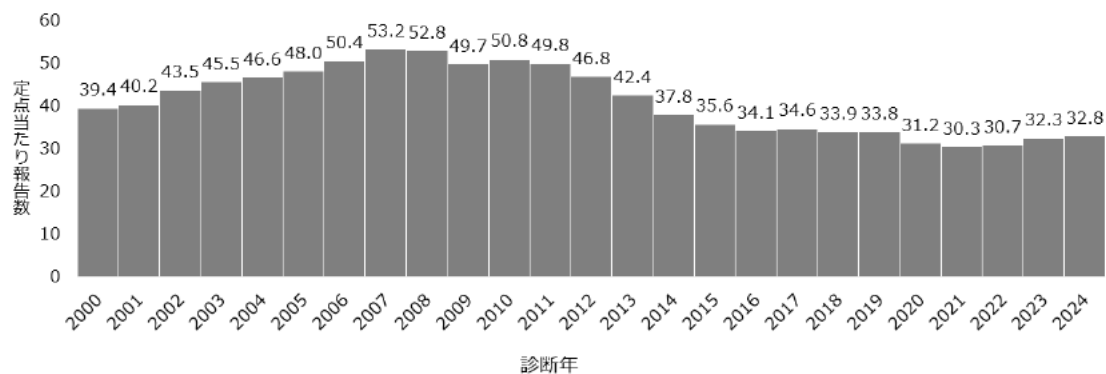
2024 年に報告された MRSA 感染症は 15,744 例であり、定点当たり報告数は 32.8 であった（図 1）。MRSA 感染症の報告数は 2011 年から 2021 年までは概ね減少していたが、2022 年以降は微増していた。

2024 年の MRSA 感染症は、全国 47 都道府県の 451 基幹定点医療機関から報告された。2024 年に五類定点把握対象疾患を報告した医療機関数の月当たりの平均は 480 で、MRSA 感染症はそのうちの 94%から報告された。各基幹定点医療機関が報告した MRSA 感染症の報告数は中央値 26、最小値 1、最大値 322 であった。

2024 年に報告された患者の性別は男性が 9,709 例（62%）と女性より多く、診断時年齢は 70 歳以上が 10,657 例（68%）であった（図 2）。性別の分布は、2011 年から 2024 年まで、同様の傾向を示していた。70 歳以上の割合は、2011 年から 2021 年は 62～65%であったが、2022 年に増加し（69%）、2023、2024 年は横ばいで推移した。2024 年に報告された MRSA 感染症における菌が分離された検体^{*}は気道検体が 4,976 例（32%）と最も多く、次いで血液検体 2,950 例（19%）であった（表）。2013 年以降の気道検体と血液検体が占める割合が高い傾向は、2024 年も同様であった。

* 菌が分離された検体は検体採取部位として登録された情報を用い集計した（検体採取部位：複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1か所のみが報告される）。

図1. MRSA感染症の年別定点当たり報告数、2000～2024年



平均定点数 457 458 465 468 468 471 458 469 472 470 470 471 473 475 478 479 479 479 481 480 479 479 479 480 480

図2. 定点医療機関から報告されたMRSA感染症症例の年齢分布、2024年

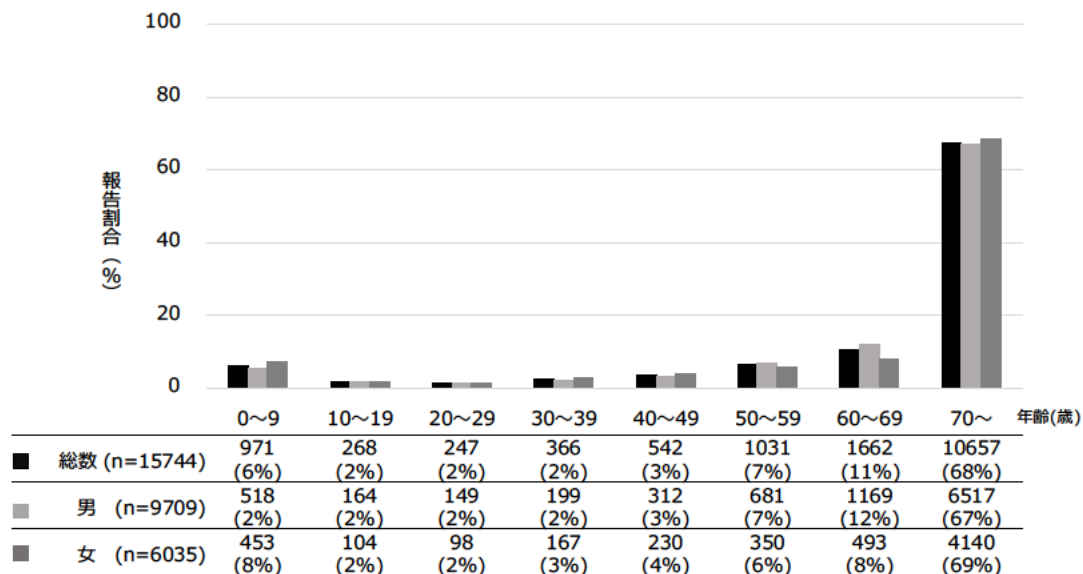


表. 定点医療機関から報告されたMRSA感染症症例の菌が分離された検体の内訳、2024年

	2024年 (n=15744)	
	報告数	割合
気道検体*	4976	32%
血液	2950	19%
創部	1322	8%
尿・カテーテル尿	1013	6%
便	267	2%
胸水	115	<1%
腹水	64	<1%
髄液	32	<1%
その他†	5005	32%

*気道検体：喀痰、留置カテーテル（気管）、気管支浄液

†その他：留置カテーテル（体腔内）、留置カテーテル（血管）、留置カテーテル（その他）、その他

参考 感染症法の届出及び米国Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) 2012における微量液体希釈法MRSA判定基準値

薬剤名	感染症法届出基準*	CLSI† (M100-S22)
オキサシリン	≥4mg/ml	≥4μg/ml
セフォキシチン	(基準なし)*	≥8μg/ml

* 感染症法にはセフォキシチンはMRSAの判定基準薬剤に含まれていない

† 厚生労働省 院内感染対策サーベイランスが準拠している 薬剤耐性菌判定基準であるアメリカの Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) の判定基準値。CLSI 2023 (M100-Ed33) の基準も同様。